

## 日向両社参拝記

日時 一月十五日午前八時出発  
午後三時半帰着

行先

宮崎県東臼杵郡  
北浦町三川内 尾高知神社  
北川町瀬口 御頭神社

幸い寒中ながら好天気、史談会としてははじめてのバス二台、参加者七十九名。そのほとんどは初めての参拝であった。

尾高知神社は佐伯惟治公最期の地、大祭りで昨秋新築の社殿ではお神楽があげられ、広くもない境内一ぱいの参拝客にご神酒がひろめられ、歌系の方々からおむすびなどのご接待があった。

松の香のまだにおう社殿の向って右側、薄暗い大樹の下にある「佐伯大神朝臣惟治魂」の、古びた自然石の墓を拜して、悲憤の惟治公を偲んで感慨を深うした。

古江峠のバスに戻ったのが正午すぎ、すぐ弁当となったが、バスの中でするもの、外に出て北浦町古江の海をながめつつ、枯草の上に坐っているグループ、いずれも楽

しいものであった。

午後は再びバス、国道十号線を南下して瀬口に入り、御頭神社に参拝した。ここも

今日がお祭り日、しかし行事は午前中に終った由で、旗幟の立ち並ぶ参道をたどって参拝した。社殿・境内は小さく狭いが、瀬口の老人クラブが管理、毎日交代で奉仕して参拝客の応接に当たっているという。

七、八年前新築された社殿は、毎日焚くお燈明や線香の煙で、すでに黒ずんでいる感で、参拝者の多いことがうなずける。

尾高知の峯で憤死した惟治公の首級を、敵手に渡すまじと家臣の一人がここまでのがれ来て、ここに葬って以来四百数十年の奉祀である。その伝承は今もそのまま語り伝えられていることがありがたい。

両社とも、祭神は牟牟礼城主佐伯惟治公である。このバス旅行に参加された佐伯の皆さんを迎えて、ご神霊はさぞかしご満悦であつたらうと思われる。この機縁により参拝会員の皆さんが、ふるさとの中世の領主佐伯氏の歴史に心を傾けていただけたら、両社参拝旅行の目的は達せられる。

午後は寒風で雨という天気予報も、うまくはずれて日中は暖かく快適、帰りのバスに乗るところから小雨、何の故障もなく一路北上、午後三時半佐伯に帰着した。

(旅行会計、後送の写真代・送料を支払って、尚少々残額があると思われるが、それは史談会の本会計に繰入れるつもり、ご諒承を乞う)

——羽柴——

